

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-202937

(P2002-202937A)

(43) 公開日 平成14年7月19日 (2002.7.19)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テマコード [*] (参考)
G 0 6 F 13/00	5 6 0	G 0 6 F 13/00	5 6 0 A
17/60	1 3 2	17/60	1 3 2
	5 0 2		5 0 2

審査請求 未請求 請求項の数 7 O L (全 20 頁)

(21) 出願番号 特願2000-403171 (P2000-403171)

(22) 出願日 平成12年12月28日 (2000. 12. 28)

(71) 出願人 500096765

アイ・ビー・アイ株式会社

東京都文京区音羽2丁目2番地2号アベニ
ュー音羽204号室

(72) 発明者 犬丸 大助

東京都文京区音羽2丁目2番2号 アイ・
ビー・アイ株式会社内

(72) 発明者 安波 賢一

東京都文京区音羽2丁目2番2号 アイ・
ビー・アイ株式会社内

(74) 代理人 100102406

弁理士 黒田 健二 (外3名)

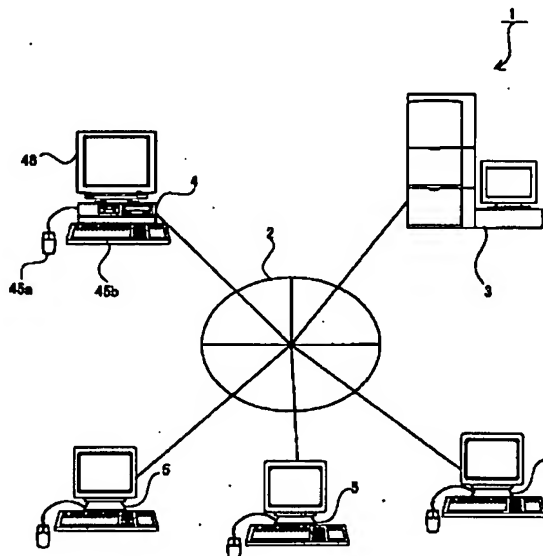
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 ウェブサイト自動作成装置、ウェブサイト自動作成システム、ウェブサイト自動作成方法、及び、記録媒体

(57) 【要約】

【課題】 専用のアプリケーションソフトウェア等を用意することなく、専門的な知識を持たないユーザであっても手軽にウェブページを作成できるようにする。

【解決手段】 サーバ3と、ウェブブラウザを搭載したクライアント4とがインターネット2を介して接続されるウェブサイト自動作成システム1において、サーバ3からクライアント4に対し、ウェブページ中のオブジェクトを指定するための入力枠と各オブジェクトのレイアウトを示す情報を含むウェブページが送信され、クライアント4は、サーバ3から送信されたウェブページを受信して画面上に表示する。そして、ユーザが、表示された画面上の入力枠に文字や画像を指定する情報を入力すると、入力内容がサーバ3へ送信される。サーバ3は、クライアント4における入力内容をもとにウェブページを作成し、インターネットアドレスが付与された格納領域に格納する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 ユーザが操作する端末装置に対して通信回線を介して接続されてなるウェブサイト自動作成装置であって、

前記ユーザに対応づけて、固有のインターネットアドレスが付与された格納領域が設けられたウェブサイト格納手段と、

ウェブページにおけるオブジェクトの配置状態を示す配置情報を前記端末装置へ送信する配置情報送信手段と、前記配置情報送信手段により送信された配置情報に応じて前記端末装置から送信されるデータを受信する受信手段と、

前記受信手段により受信されたデータに基づいてオブジェクトを生成し、前記配置情報送信手段により送信された配置情報に従って前記オブジェクトが配置されたウェブページを作成するウェブページ作成手段と、

前記ウェブページ作成手段により作成されたウェブページを前記ウェブサイト格納手段に設けられた格納領域に格納させるウェブサイト格納制御手段と、

を備えることを特徴とするウェブサイト自動作成装置。

【請求項2】 前記配置情報送信手段は、ウェブページにおいてオブジェクトが配置される位置を示す情報と、オブジェクトを指定する情報を入力するための入力エリアとを含む画面を、前記端末装置に表示させるための配置情報を送信することを特徴とする請求項1記載のウェブサイト自動作成装置。

【請求項3】 前記ウェブサイト格納手段には、固有のインターネットアドレスとともに固有の識別情報がそれぞれ付与された複数の格納領域が設けられ、

前記ウェブサイト格納制御手段は、前記端末装置から送信される識別情報を受信し、受信した識別情報と一致する識別情報が付与された格納領域に、前記ウェブページ作成手段により作成されたウェブページを格納させることを特徴とする請求項1または2記載のウェブサイト自動作成装置。

【請求項4】 前記配置情報送信手段は、異なる複数の前記配置情報のうち、前記端末装置により指定された配置情報を前記端末装置へ送信することを特徴とする請求項1から3のいずれかに記載のウェブサイト自動作成装置。

【請求項5】 ユーザが操作する端末装置とウェブサイト自動作成装置とを通信回線を介して接続してなるウェブサイト自動作成システムであって、

前記ウェブサイト自動作成装置は、

前記ユーザに対応づけて、固有のインターネットアドレスが付与された格納領域が設けられたウェブサイト格納手段と、

ウェブページにおいてオブジェクトが配置される位置を示す情報と、オブジェクトを指定する情報を入力するための入力エリアとを含む画面を、前記端末装置に表示さ

せるための配置情報を送信する配置情報送信手段と、前記配置情報送信手段により送信された配置情報に応じて前記端末装置から送信される入力データを受信する入力データ受信手段と、

前記入力データ受信手段により受信された入力データに基づいてオブジェクトを生成し、前記配置情報送信手段により送信された配置情報に従って前記オブジェクトが配置されたウェブページを作成するウェブページ作成手段と、

10 前記ウェブページ作成手段により作成されたウェブページを前記ウェブサイト格納手段に設けられた格納領域に格納させるウェブサイト格納制御手段とを備えてなり、前記端末装置は、

前記ウェブサイト自動作成装置が有する配置情報送信手段により送信された配置情報を受信する受信手段と、

前記受信手段により受信された配置情報に基づいて、ウェブページにおいてオブジェクトが配置される位置を示す情報とオブジェクトを指定する情報を入力するための入力エリアとを含む画面を表示する表示手段と、

20 前記表示手段により前記画面が表示された状態で、オブジェクトを指定する情報を入力する入力手段と、

前記入力手段により入力された情報を入力データとして前記ウェブサイト自動作成装置へ送信する送信手段とを備えること、

を特徴とするウェブサイト自動作成システム。

【請求項6】 ユーザが操作する端末装置とウェブサイト自動作成装置とを通信回線を介して接続してなるウェブサイト自動作成システムにおけるウェブサイト自動作成方法であって、

30 前記ウェブサイト自動作成装置により、ウェブページにおいてオブジェクトが配置される位置を示す情報と、オブジェクトを指定する情報を入力するための入力エリアとを含む画面を、前記端末装置により表示させるための配置情報を送信し、

送信した前記配置情報に応じて前記端末装置から送信されるデータを受信し、

受信した前記データに基づいてオブジェクトを生成し、前記配置情報に従って前記オブジェクトが配置されたウェブページを作成し、

40 作成した前記ウェブページを、前記ユーザに対応づけて設けられた、固有のインターネットアドレスが付与された格納領域に格納する一方、

前記端末装置により、

前記ウェブサイト自動作成装置から送信された配置情報を受信し、

受信した前記配置情報に基づいて、ウェブページにおいてオブジェクトが配置される位置を示す情報とオブジェクトを指定する情報を入力するための入力エリアとを含む画面を表示し、

50 前記画面が表示された状態で、オブジェクトを指定する

情報が入力されると、入力された情報を入力データとして前記ウェブサイト自動作成装置へ送信すること、を特徴とするウェブサイト自動作成方法。

【請求項7】 ユーザが操作する端末装置に対して通信回線を介して接続されてなるウェブサイト自動作成装置の制御プログラムを格納した記録媒体であって、ウェブページにおけるオブジェクトの配置状態を指定する配置情報を前記端末装置へ送信するためのプログラムコードと、送信した配置情報に応じて前記端末装置から送信されるデータを受信するためのプログラムコードと、受信した前記データに基づいてオブジェクトを生成し、前記配置情報に従って前記オブジェクトが配置されたウェブページを作成するためのプログラムコードと、作成した前記ウェブページを、前記ユーザに対応づけて設けられた、固有のインターネットアドレスが付与された格納領域に格納するためのプログラムコードと、を含むプログラムを格納したことを特徴とする記録媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、WWW (World Wide Web) サーバによってインターネット上で提供されるウェブページを作成するウェブサイト自動作成装置、及び、このウェブサイト自動作成装置を含んでなるウェブサイト自動作成システム並びにウェブサイト自動作成方法、及び、上記ウェブサイト自動作成装置の制御プログラムを格納した記録媒体に関する。

【0002】

【従来の技術】近年、インターネットの利用者は急速に増加しており、パーソナルコンピュータやPDA (Personal Digital Assistant: 個人情報端末) 等、ウェブブラウザを搭載した機器も急速に普及している。

【0003】そして、ISP (Internet Service Provider) 等によってホスティングサービスやレンタルサーバが提供されるようになり、自らサーバを設置できない個人や企業であってもウェブサイトを公開できるようになっている。

【0004】また、パーソナルコンピュータ向けに、ウェブページ作成用のアプリケーションソフトウェアが多数提供されるようになり、比較的簡単にウェブページを作成して、ウェブサイトを公開できる環境が整いつつある。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、専用のアプリケーションソフトウェアを用いた場合であっても、ウェブページの作成にあたっては、HTML (HyperText Markup Language) に関する知識等のコンピュータやネットワークに関する知識が要求されることが少なくない。

【0006】今後、インターネットを利用しているユーザの数は、ますます増加することが確実視されており、現在はインターネットを利用していない人の中にも、ウェブページを作成したいと望んでいる人は多い。しかしながら、インターネットやコンピュータの利用に関する初歩的な知識を持たない人にとっては、自分の目的に応じたアプリケーションソフトウェアを選択することも難しく、自らウェブページを作成することは非常に困難であった。

【0007】一方、インターネットの利用人口の増加により、ウェブページの広告・宣伝効果は著しく増大している。このため、多くの企業にとって、ウェブページを作成してインターネットで公開することは、経営上も大きな意義を持つものとなっている。しかし、上述したように、コンピュータ等の知識が十分でない経営者や従業員が自分でウェブページを作成することは困難であった。このため、仕方なくウェブページ作成を専門業者に依頼する場合、多額の報酬が必要であった。また、ウェブページの一部を変更するだけでも専門業者に依頼しなければならず、ウェブページの更新も制限されるという問題があった。

【0008】そこで、本発明の目的は、専門的な知識を持たないユーザであっても、手軽にウェブページを作成できるようにすることにある。

【0009】

【課題を解決するための手段】上記の目的を達成するために、本発明は、次のような特徴を備えている。なお、次に示す説明中、括弧書きにより実施の形態に対応する構成を一例として示す。符号等は、後述する図面参照符号等である。

【0010】請求項1記載の発明は、ユーザが操作する端末装置（例えば、図1に示すクライアント4）に対して通信回線（例えば、図1に示すインターネット2）を介して接続されてなるウェブサイト自動作成装置（例えば、図1に示すサーバ3）であって、前記ユーザに対応づけて、固有のインターネットアドレスが付与された格納領域（例えば、図3（b）に示すウェブスペース301）が設けられたウェブサイト格納手段（例えば、図2に示すウェブサイト格納部300）と、ウェブページにおけるオブジェクトの配置状態を示す配置情報を前記端末装置へ送信する配置情報送信手段（例えば、図5

（b）のステップS28に示す処理を行うCPU31）と、前記配置情報送信手段により送信された配置情報に応じて前記端末装置から送信されるデータを受信する受信手段（例えば、図5（b）のステップS29に示す処理を行うCPU31）と、前記受信手段により受信されたデータに基づいてオブジェクトを生成し、前記配置情報送信手段により送信された配置情報に従って前記オブジェクトが配置されたウェブページを作成するウェブページ作成手段（例えば、図5（b）のステップS31、

S32に示す処理を行うCPU31)と、前記ウェブページ作成手段により作成されたウェブページを前記ウェブサイト格納手段に設けられた格納領域に格納させるウェブサイト格納制御手段(例えば、図5(b)のステップS33に示す処理を行うCPU31)とを備えることを特徴とする。

【0011】ここで、インターネットアドレスとしては、インターネット上で提供されるウェブサイトを指定するためのURL等が挙げられる。このインターネットアドレスは、例えば、固有のドメイン名を含むものであっても良いし、前記サーバに付されたドメイン名とサブドメインとを組み合わせたものであっても良く、或いは、前記サーバのドメイン名と、前記サーバ内におけるディレクトリ名とを組み合わせてなるものであっても良い。また、ウェブページとしては、HTML(Hypertext Markup Language)やXML(eXtensible Markup Language)、DHTML(Dynamic HTML)等のマークアップ言語により記述されたウェブページ等が挙げられるが、特に限定されるものではなく、例えば、単にHTMLファイルのみで構成されるもの、GIF(Graphics Interchange Format)やJPEG(Joint Photographic Experts Group)、TIFF(Tagged Image File Format)、BMP(ビットマップ)等の規格に準拠した形式の画像データファイルを含むもの、WAV、MP3(MPEG-1 Audio Layer-III)、MIDI(Musical Instrument Digital Interface)等の規格に準拠した形式の音声データファイルを含むもの、CGI(Common Gateway Interface)やASP(Active Server Pages)等により外部プログラムが提供されるものや、JavaScript、VB(VisualBasic)スクリプト等のスクリプト言語による記述を含むもの等、一般的なウェブブラウザにより処理可能であれば良い。さらに、携帯型電話機等の機器向けに拡張された上記マークアップ言語により記述されたファイルであっても良い。さらに、ウェブページにおけるオブジェクトとは、例えば、上記ウェブページをウェブブラウザソフトウェアにより表示画面上に表示させた際に、該ウェブページ中に表示される文字や画像を指す。

【0012】請求項1記載の発明によれば、ユーザが操作する端末装置に対して通信回線を介して接続されてなるウェブサイト自動作成装置であって、ウェブサイト格納手段に、ユーザに対応づけて、固有のインターネットアドレスが付与された格納領域を設け、ウェブページにおけるオブジェクトの配置状態を示す配置情報を、配置情報送信手段によって端末装置へ送信し、配置情報送信手段により送信された配置情報に応じて端末装置から送信されるデータを受信手段によって受信し、ウェブページ作成手段により、受信手段によって受信されたデータに基づいてオブジェクトを生成し、配置情報送信手段により送信された配置情報に従ってオブジェクトが配置さ

れたウェブページを作成して、ウェブサイト格納制御手段によって、ウェブページ作成手段により作成されたウェブページをウェブサイト格納手段に設けられた格納領域に格納させる。

【0013】また、請求項7記載の発明は、ユーザが操作する端末装置(例えば、図1に示すクライアント4)に対して通信回線(例えば、図1に示すインターネット2)を介して接続されてなるウェブサイト自動作成装置(例えば、図1に示すサーバ3)の制御プログラムを格納した記録媒体であって、ウェブページにおけるオブジェクトの配置状態を指定する配置情報を前記端末装置へ送信するためのプログラムコードと、送信した配置情報に応じて前記端末装置から送信されるデータを受信するためのプログラムコードと、受信した前記データに基づいてオブジェクトを生成し、前記配置情報に従って前記オブジェクトが配置されたウェブページを作成するためのプログラムコードと、作成した前記ウェブページを、前記ユーザに対応づけて設けられた、固有のインターネットアドレスが付与された格納領域に格納するためのプログラムコードとを含むプログラムを格納したことを特徴とする。

【0014】従って、端末装置を操作するユーザが、ウェブサイト自動作成装置から送信された配置情報に基づいて端末装置に表示される画面に従って、オブジェクトについての入力を行うことにより、入力内容のデータがウェブサイト作成装置に送信されてウェブページが作成され、格納領域に格納される。また、格納領域には固有のインターネットアドレスが付与されているので、ユーザが独自のドメイン名を取得する等の作業を行わなくても、作成されたウェブページがインターネット上で公開される。これにより、ユーザが簡単な操作を行うだけでウェブページを作成して公開することができるので、ネットワークやコンピュータの知識や利用経験に乏しいユーザであっても、容易に、自分の好みのウェブページを作成して公開することができる。

【0015】特に、ウェブサイト作成装置から端末装置に対して、ウェブページにおけるオブジェクトの配置状態を示す配置情報が送信されるため、ウェブページ中のオブジェクトの配置は、ユーザが指定しなくても予め定められている。従って、ユーザがウェブページの全ての構成を創案しなくても良いので、不慣れなユーザであっても手軽にウェブページを作成できる。また、容易にウェブページを作成できるので、ウェブページを作成した後、新たにウェブページを作成して、先に作成したウェブページに代えることで、簡単にウェブページの更新を行うことができる。これにより、ウェブページの陳腐化を防止し、少ない労力で手軽にウェブページの維持管理を行える。

【0016】請求項2記載の発明は、請求項1記載のウェブサイト自動作成装置において、前記配置情報送信手

段は、ウェブページにおいてオブジェクトが配置される位置を示す情報と、オブジェクトを指定する情報を入力するための入力エリアとを含む画面（例えば、図7に示すトップページ編集画面410）を、前記端末装置に表示させるための配置情報を送信することを特徴とする。

【0017】請求項2記載の発明によれば、配置情報送信手段により、ウェブページにおいてオブジェクトが配置される位置を示す情報と、オブジェクトを指定する情報を入力するための入力エリアとを含む画面を、端末装置に表示させるための配置情報が送信される。

【0018】従って、端末装置を利用するユーザは、ウェブページにおいてオブジェクトが配置される位置を示す情報と、オブジェクトを指定する情報を入力するための入力エリアとが表示された画面を見ながら、入力エリアに、オブジェクトを指定する情報を入力すれば良い。これにより、より簡単な作業によって容易にウェブページを作成できるので、経験の浅い不慣れたユーザであっても、ウェブページを作成することができる。

【0019】なお、ここで、ウェブサイト自動作成装置が有する配置情報送信手段により送信される配置情報を、ウェブページにより構成されるものとすれば、端末装置は、広く一般に普及しているWWW（World Wide Web）ブラウザを利用可能なものであれば良く、容易に実現可能である。

【0020】請求項3記載の発明は、請求項1または2記載のウェブサイト自動作成装置において、前記ウェブサイト格納手段には、固有のインターネットアドレスとともに固有の識別情報がそれぞれ付与された複数の格納領域が設けられ、前記ウェブサイト格納制御手段は、前記端末装置から送信される識別情報を受信し、受信した識別情報と一致する識別情報が付与された格納領域に、前記ウェブページ作成手段により作成されたウェブページを格納させることを特徴とする。

【0021】請求項3記載の発明によれば、ウェブサイト格納手段には、固有のインターネットアドレスとともに固有の識別情報がそれぞれ付与された複数の格納領域が設けられ、ウェブサイト格納制御手段は、端末装置から送信される識別情報を受信し、受信した識別情報と一致する識別情報が付与された格納領域に、ウェブページ作成手段により作成されたウェブページを格納させる。

【0022】従って、端末装置から識別情報を送信することによって、ウェブサイト自動作成装置においては、作成されたウェブページが、送信された識別情報に対応する格納領域に格納される。これにより、ウェブサイト自動作成装置において、複数のユーザに対して効率よくウェブサイト自動作成のサービスを提供することができる。また、例えば、識別情報を各ユーザに固有のユーザIDとすれば、ユーザは、ウェブサイト自動作成装置に接続可能な端末装置であれば、どの端末装置を使っても自分に割り当てられた格納領域内のウェブページを作成

し、更新できるので、ウェブサイト自動作成装置の利便性をより一層高めることができる。

【0023】また、例えば、端末装置から送信される識別情報を用いて、ウェブサイト自動作成装置によって端末装置を利用するユーザの認証を行う構成とすることも容易である。この場合、セキュリティ面におけるウェブサイト自動作成装置の信頼性を、より一層高めることができる。

【0024】請求項4記載の発明は、請求項1から3のいずれかに記載のウェブサイト自動作成装置において、前記配置情報送信手段は、異なる複数の前記配置情報（例えば、図12に示すページパターン461、462、463、464、465）のうち、前記端末装置により指定された配置情報を前記端末装置へ送信することを特徴とする。

【0025】請求項4記載の発明によれば、配置情報送信手段は、異なる複数の配置情報のうち、端末装置により指定された配置情報を端末装置へ送信する。

【0026】従って、端末装置を利用するユーザは、異なる配置情報の中から所望の配置情報を用いて、ウェブページを作成することができる。例えば、オブジェクトのレイアウトが異なる複数の配置情報の中から所望の配置情報を選択すれば、より高い自由度で、自分の好みに合ったウェブページを作成することができる。また、例えば、複数のウェブページを作成する際に、各ウェブページにおけるオブジェクトの配置状態を変えることで、バリエーションに富んだウェブページを作成することができる。このため、簡単な操作によって、より興味性に富むウェブページを作成することができる。

【0027】請求項5記載の発明は、ユーザが操作する端末装置（例えば、図1に示すクライアント4）とウェブサイト自動作成装置（例えば、図1に示すサーバ3）とを通信回線（例えば、図1に示すインターネット2）を介して接続してなるウェブサイト自動作成システム（1）であって、前記ウェブサイト自動作成装置は、前記ユーザに対応づけて、固有のインターネットアドレスが付与された格納領域（例えば、図3（b）に示すウェブスペース301）が設けられたウェブサイト格納手段（例えば、図2に示すウェブサイト格納部300）と、ウェブページにおいてオブジェクトが配置される位置を示す情報と、オブジェクトを指定する情報を入力するための入力エリアとを含む画面（例えば、図7に示すトップページ編集画面410）を、前記端末装置に表示させるための配置情報を送信する配置情報送信手段（例えば、図5（b）のステップS28に示す処理を行うCPU31）と、前記配置情報送信手段により送信された配置情報に応じて前記端末装置から送信される入力データを受信する入力データ受信手段（例えば、図5（b）のステップS29に示す処理を行うCPU31）と、前記入力データ受信手段により受信された入力データに基づ

いてオブジェクトを生成し、前記配置情報送信手段により送信された配置情報に従って前記オブジェクトが配置されたウェブページを作成するウェブページ作成手段（例えば、図5（b）のステップS31、S32に示す処理を行うCPU31）と、前記ウェブページ作成手段により作成されたウェブページを前記ウェブサイト格納手段に設けられた格納領域に格納させるウェブサイト格納制御手段（例えば、図5（b）のステップS33に示す処理を行うCPU31）とを備えてなり、前記端末装置は、前記ウェブサイト自動作成装置が有する配置情報送信手段により送信された配置情報を受信する受信手段（例えば、図5（a）のステップS13に示す処理を行うCPU41）と、前記受信手段により受信された配置情報に基づいて、ウェブページにおいてオブジェクトが配置される位置を示す情報とオブジェクトを指定する情報を入力するための入力エリアとを含む画面を表示する表示手段（例えば、図5（a）のステップS13に示す処理を行うCPU41）と、前記表示手段により前記画面が表示された状態で、オブジェクトを指定する情報を入力する入力手段（例えば、図5（a）のステップS14に示す処理を行うCPU41）と、前記入力手段により入力された情報を入力データとして前記ウェブサイト自動作成装置へ送信する送信手段（例えば、図5（a）のステップS16に示す処理を行うCPU41）とを備えることを特徴とする。

【0028】また、請求項6記載の発明は、ユーザが操作する端末装置（例えば、図1に示すクライアント4）とウェブサイト自動作成装置（例えば、図1に示すサーバ3）とを通信回線（例えば、図1に示すインターネット2）を介して接続してなるウェブサイト自動作成システム（1）におけるウェブサイト自動作成方法であって、前記ウェブサイト自動作成装置により、ウェブページにおいてオブジェクトが配置される位置を示す情報と、オブジェクトを指定する情報を入力するための入力エリアとを含む画面を、前記端末装置により表示させるための配置情報を送信し、送信した前記配置情報に応じて前記端末装置から送信されるデータを受信し、受信した前記データに基づいてオブジェクトを生成し、前記配置情報に従って前記オブジェクトが配置されたウェブページを作成し、作成した前記ウェブページを、前記ユーザに対応づけて設けられた、固有のインターネットアドレスが付与された格納領域に格納する一方、前記端末装置により、前記ウェブサイト自動作成装置から送信された配置情報を受信し、受信した前記配置情報に基づいて、ウェブページにおいてオブジェクトが配置される位置を示す情報とオブジェクトを指定する情報を入力するための入力エリアとを含む画面を表示し、前記画面が表示された状態で、オブジェクトを指定する情報が入力されると、入力された情報を入力データとして前記ウェブサイト自動作成装置へ送信することを特徴とする。

【0029】従って、端末装置を利用するユーザは、ウェブページにおいてオブジェクトが配置される位置を示す情報と、オブジェクトを指定する情報を入力するための入力エリアとが表示された画面を見ながら、入力エリアに、オブジェクトを指定する情報を入力すれば良い。また、格納領域には固有のインターネットアドレスが付与されているので、ユーザが独自のドメイン名を取得する等の作業を行わなくても、作成されたウェブページがインターネット上で公開される。これにより、ユーザが簡単な操作を行うだけでウェブページを作成して公開することができるので、ネットワークやコンピュータの知識や利用経験に乏しいユーザであっても、容易に、自分の好みのウェブページを作成して公開することができる。

【0030】

【発明の実施の形態】以下、本発明の好ましい実施の形態を、図面に基づき説明する。図1は、本発明の実施の形態としてのウェブサイト自動作成システム1の構成を模式的に示す図である。同図に示すように、ウェブサイト自動作成システム1は、それぞれインターネット2に接続されたサーバ3、クライアント4及びクライアント5、…によって構成される。

【0031】なお、インターネット2は、専用線、公衆電話回線、衛星通信回線等の各種通信回線や図示しない各種サーバ等を含んで構成され、その具体的態様は特に限定されない。また、サーバ3、クライアント4及びクライアント5、…の各装置とインターネット2との間には、ISP（Internet Service Provider）やNSP（Network Service Provider）等が提供するサーバやファイアーウォール等の各種機器が介在する構成としても良いが、ここでは図示しない。

【0032】サーバ3は、インターネット2に接続されたWWW（World Wide Web）サーバ等の機能を有するサーバであって、固有のドメイン名が割り当てられている。

【0033】クライアント4は、ソフトウェア若しくはハードウェア、または両者の協働により実現されるWWWブラウザ（以下、ウェブブラウザ）機能を有する端末装置であって、URL（Uniform Resource Locators）等により所定のインターネットアドレスを指定することで、インターネット2を介して任意のウェブサイトにアクセスし、ウェブページを閲覧可能なものである。また、クライアント4は、ウェブブラウザによってサーバ3から送信されるウェブページを表示画面上に表示する。

【0034】なお、クライアント4は、後述するマウス45aやキーボード45bの入力装置を備えており、これらの装置における操作により入力されたデータを、インターネット2を介してサーバ3へ送信することが可能である。

【0035】クライアント5、…は、クライアント4と同様に、ウェブブラウザを搭載した端末装置であって、URL等により所定のインターネットアドレスを指定することで、インターネット2を介して任意のウェブサイトにアクセスし、ウェブページを閲覧可能なものである。

【0036】ここで、サーバ3とクライアント4、或いはクライアント5、…との間で送受信され、クライアント4及びクライアント5、…によって閲覧可能なウェブページとしては、HTML (Hypertext Markup Language) やXML (eXtensible Markup Language)、DHTML (Dynamic HTML) 等のマークアップ言語により記述されたウェブページ等が挙げられるが、特に限定されるものではなく、例えば、単にHTMLファイルのみで構成されるもの、GIF (Graphics Interchange Format) やJPEG (Joint Photographic Experts Group)、TIFF (Tagged Image File Format)、BMP (ビットマップ) 等の規格に準拠した形式の画像データファイルを含むもの、WAV、MP3 (MPEG-1 Audio Layer-III)、MIDI (Musical Instrument Digital Interface) 等の規格に準拠した形式の音声データファイルを含むもの、CGI (Common Gateway Interface) やASP (Active Server Pages) 等により外部プログラムが提供されるものや、JavaScript、VB (Visual Basic) スクリプト等のスクリプト言語による記述を含むもの等、一般的なウェブブラウザにより処理可能であれば良い。さらに、携帯型電話機等の機器向けに拡張された上記マークアップ言語により記述されたファイルであっても良い。

【0037】図2は、サーバ3の構成を示すブロック図である。同図に示すように、サーバ3は、CPU (Central Processing Unit) 31、RAM (Random Access Memory) 32、記憶装置33、通信制御装置34、入力装置35及び表示装置36を備えて構成されており、各部はバス37によって相互に接続されている。また、記憶装置33内には、ユーザ情報格納部33a及びウェブサイト格納部300が格納される。

【0038】CPU31は、記憶装置33に格納されたシステムプログラムを読み出して、RAM32に設けられたワークエリアに展開して実行することにより、サーバ3の各部を駆動制御する。例えば、CPU31は、記憶装置33に格納された通信制御プログラムを読み出して実行し、通信制御装置34を駆動制御して、インターネット2との間における通信回線を確立する。また、CPU31は、入力装置35における指示入力、若しくは通信制御装置34により受信した指示に基づいて、記憶装置33に格納されたアプリケーションプログラムを読み出して実行することにより、WWWサーバとしての機能を実現して、インターネット2を介して接続されたクライアント4やクライアント5、…に対してウェブペー

ジの閲覧サービスを提供するとともに、クライアント4に対して、ウェブサイトの自動作成サービスを提供する。

【0039】具体的には、CPU31は、通信制御装置34によってクライアント4からのアクセスを検知すると、記憶装置33に格納されたウェブサイト作成サービスプログラムを読み出して実行し、クライアント4に対して、後述する認証画面400をウェブページとして表示するためのHTMLファイル等のデータを送信する。そして、認証画面400を表示中のクライアント4からIDとパスワードのデータが送信されると、送信されたIDとパスワードの認証を実行し、認証に成功した場合には、クライアント4に対応づけて記憶装置33内のウェブサイト格納部300に設けられたウェブスペースを探索する。そして、CPU31は、クライアント4に対してウェブサイト作成用の画面を表示するためのデータを送信し、ウェブサイト作成用の画面が表示されたクライアント4から送信されるデータを適宜配置することによってウェブページを作成する。その後、CPU31は、作成したウェブページを、先に探索したウェブスペースに格納することにより、クライアント4を利用するユーザのウェブサイトを作成する。

【0040】RAM32は、CPU31により実行されるシステムプログラム、各種アプリケーションプログラム、及び、これらプログラムに係るデータ等を一時的に格納するワークエリアを形成する。

【0041】記憶装置33は、磁氣的、光学的記録媒体、若しくは半導体メモリ等で構成される記憶媒体(図示略)を有し、この記憶媒体(図示略)に各種プログラムやデータ等を記憶する。なお、この記憶媒体(図示略)に記憶するプログラムやデータ等は、その一部若しくは全部を他の機器から通信回線等を介して通信制御装置34から受信して記憶する構成にしてもよく、さらに、記憶媒体(図示略)はインターネット2等のネットワーク上に構築された他のサーバが有する記憶媒体であってもよい。また、記憶装置33は、後述するユーザ情報格納部33a及びウェブサイト格納部300を格納する。

【0042】通信制御装置34は、モデム(MODEM: Modulator/DEModulator)、ADSL (Asymmetric Digital Subscriber Line) モデムやスプリッタ、ケーブルモデム、ターミナルアダプタ(TA: Terminal Adapter)やDSU (Digital Service Unit) 等によって構成され、電話回線、ISDN (Integrated Services Digital Network) 回線、ADSL回線、ケーブルテレビ回線、或いは光ファイバ等によってなる専用線等の通信回線を介して、インターネット2に接続されたクライアント4やクライアント5、…等の外部機器との通信を行うための制御を行う。

【0043】入力装置35は、数字キー、文字キー、各

種機能キー等を備えるキーボードや、マウスやタブレット等のポインティングデバイスを有しており、キーボード上で操作されたキーに対応する操作信号、若しくはポインティングデバイスの操作に伴う位置情報を含む操作信号をCPU31へ出力する。

【0044】表示装置36は、CRT (Cathode Ray Tube) やLCD (Liquid Crystal Display) 等の表示画面を有しており、CPU31により実行中のアプリケーションプログラムに関するデータや、インターネット2を経由して通信制御装置34により受信したデータ、サーバ3の各部の動作状態に係るデータ等を上記の表示画面に表示する。

【0045】ここで、記憶装置33に格納されるユーザ情報格納部33a及びウェブサイト格納部300について詳細に説明する。図3は、記憶装置33に格納されるユーザ情報格納部33a及びウェブサイト格納部300の構成を示す図であり、(a)はユーザ情報格納部33aの構成を模式的に示す図であり、(b)はウェブサイト格納部300の構成を模式的に示す図である。

【0046】図3(a)に示すように、ユーザ情報格納部33aには、各ユーザに割り当てられたユーザIDと、パスワード、契約者名、契約者電話番号、契約者に対して付与された電子メールアドレス等の情報、及び、各ユーザに対応づけてウェブサイト格納部300に設けられたウェブスペースのインターネットアドレスが、ユーザ毎に対応づけて格納されている。なお、ユーザ情報格納部33aに格納された情報は図3(a)に示すようなテーブル形式で管理することが可能であり、セキュリティ面の配慮からパスワードは暗号化され、ここでは伏せ字により表現されている。

【0047】例えば、図3(a)中の左端に示すユーザID「12345678」には、予め定められたパスワードと、契約者名「株式会社 ○○亭」が格納されている。つまり、ユーザID「12345678」のユーザは、法人として上記IDを有するユーザであり、その連絡先として電話番号「03-4567-8901」が格納されている。また、このユーザには、ウェブサイト格納部300に割り当てられたドメイン名に属する電子メールアドレス「ra-men1@autohp.com」が付与されている。この例では、ドメイン名「autohp.com」を有するサーバ3が、ユーザに対してメールサーバとしての機能を提供するものである。さらに、このユーザに対しては、ウェブサイト格納部300のドメイン名にサブドメイン名を付してなるインターネットアドレス「ra-men1.autohp.com」が与えられている。このインターネットアドレスは、該ユーザに対応づけてウェブサイト格納部300に設けられたウェブスペースにアクセスするためのURLとして利用できる。

【0048】図3(b)に示すように、ウェブサイト格納部300内には、ウェブスペース301、302等の複数のウェブスペースが設けられている。これらの各ウ

ェブスペースは、図3(a)に示すユーザ情報格納部33aに格納された情報に対応づけられている。例えば、ウェブスペース301は、ユーザID「12345678」に対応づけられている。すなわち、ウェブスペース301は、ユーザ情報格納部33aに格納されたユーザID「12345678」を有するユーザ「株式会社 ○○亭」に対応づけて設けられた格納スペースである。

【0049】ウェブスペース301、302等のウェブスペースは、ウェブサイト格納部300内に作成されたディレクトリとして構成されている。このため、各ウェブスペースは、ウェブサイト格納部300のドメイン名「autohp.com」にディレクトリ名を付した「http://www.autohp.com/ra-men1/」によって指定することも可能である。このURLは、ウェブサイト格納部300内におけるウェブスペース301の実アドレスである。従って、このURLを用いて、クライアント4やクライアント5、…(図1)からインターネット2を介してウェブスペース301にアクセスすることは勿論可能であり、表向きのインターネットアドレスとして公開することも可能であるが、これら実アドレスに代えて、仮想ドメインを用いることも可能である。

【0050】しかしながら、実アドレスではURLが複雑になる傾向がある。特に企業のウェブサイトでは、広告効果や認知度が重要なため、サブドメイン名を用いてURLをわかりやすいものとすることが重要である。

【0051】このため、ユーザ情報格納部33aにおいて、ウェブスペース301を利用するユーザに対しては、サブドメイン名を含むインターネットアドレス「ra-men1.autohp.com」が与えられている。これを利用して、ウェブスペース301へアクセスするためのURLを「http://ra-men1.autohp.com/」とすれば、URLをわかりやすいものとし、利便性の向上を図ることができる。

【0052】また、例えば、図3(b)に示すウェブスペース302の実アドレスは、「http://www.autohp.com/bread/」というインターネットアドレスとなる。しかしながら、仮想ドメインを用いることにより、例えば、ウェブサイト格納部300が有するドメイン名「autohp.com」にサブドメインを付してなるURL「http://bread.autohp.com/」が、ウェブスペース302にアクセスするためのインターネットアドレスとなっており、サブドメイン「bread.autohp.com」はユーザ情報格納部33aにも設定されている。

【0053】なお、ウェブサイト格納部300に設けられるウェブスペースのインターネットアドレスには、ウェブサイト格納部300が有するドメイン名「autohp.com」とは無関係な独自のドメイン名、例えば「http://www.bread.com/」を用いることも可能であり、実アドレスをそのまま用いることも可能である。また、上述したような、実アドレスとは異なるインターネットアドレス

を用いてアクセス可能とする仮想ドメイン等の技術は、ネットワーク技術等の技術分野では既に公知である。

【0054】このように、ウェブサイト格納部300を有するサーバ3は、固有のドメイン「autohp.com」を有するので、ウェブスペース301、302等のウェブサイト格納部300内のウェブスペースには、サブドメイン名を付したインターネットアドレスを付与することができる。このため、ウェブサイト格納部300内のウェブスペースを利用するユーザは、ドメイン名取得の手続きを行うことなく、ウェブサイトを作成できる。

【0055】また、ウェブサイト格納部300内のウェブスペース301、302等のウェブスペースには、複数のファイルを格納することができる。これらのファイルは例えばHTMLにより記述されたウェブページであり、図3(b)に示すように、「index.htm」、「menu.htm」等のファイル名が付与されている。このようなウェブスペース内のファイル構成は、インターネット2を利用したWWWで提供される一般的なウェブサイトと同様の構成であり、複数のHTMLファイルの他に各種画像ファイルを格納しても良いし、或いは、さらに複数のファイルを含むディレクトリが階層をなして構築されるようにしても良い。

【0056】さらに、ウェブサイト格納部300に設けられるウェブスペースには、該ウェブスペースを利用するユーザのユーザIDが設定されており、さらに、図示しないパスワードを示す情報が付与されている。このパスワードは、該ユーザに対応づけてユーザ情報格納部33aに設定されたパスワードと同一である。

【0057】従って、サーバ3においては、ユーザのIDとパスワードとがクライアント4から送信される際に、ユーザ情報格納部33a内の情報に基づく認証の後、さらに、ウェブサイト格納部300におけるウェブスペースで認証を行うことができる。これにより、セキュリティ面での信頼性をより一層向上させることができる。

【0058】続いて、クライアント4の構成について説明する。図4は、クライアント4の構成を示すブロック図である。同図に示すように、クライアント4は、CPU41、RAM42、記憶装置43、通信制御装置44、入力装置45及び表示装置46等を備えてなり、これらの各部はバス47により相互に接続されている。また、入力装置45は、図1に示すマウス45a及びキーボード45bを備えている。

【0059】CPU41は、入力装置45が有するマウス45a若しくはキーボード45bにおける入力操作に応じて、記憶装置43に格納されたシステムプログラムを読み出して、RAM42に設けられるワークエリアに展開して実行し、クライアント4の各部を駆動制御し、例えば、通信制御装置44により、インターネット2を介してサーバ3との間におけるデータの送受信を行わせ

る。

【0060】また、CPU41は、入力装置45における指示入力に従って、記憶装置43内に格納された各種アプリケーションプログラムを読み出して実行することにより、クライアント4における各種機能を実現する。具体的には、CPU41は、記憶装置43に格納されたウェブブラウザプログラムを読み出して実行することにより、通信制御装置44を介して受信したウェブページを表示するための表示情報を生成して表示装置46へ出力し、表示装置46の画面上にウェブページを表示させる。

【0061】さらに、CPU41は、通信制御装置44によってサーバ3へアクセスし、サーバ3からウェブページのデータが送信されると、このデータを通信制御装置44によって受信させ、受信したデータに基づく画面を表示装置46により表示させる。そして、CPU41は、ウェブページが表示装置46により表示された状態で、入力装置45における入力操作が行われ、入力内容が確定されると、入力されたデータをサーバ3へ送信する。

【0062】RAM42は、CPU41により実行されるシステムプログラム、各種アプリケーションプログラム、及び、これらプログラムに係るデータ等を一時的に格納するワークエリアを形成する。

【0063】記憶装置43は、磁氣的、光学的記録媒体、若しくは半導体メモリ等により構成される記憶媒体（図示略）を有し、この記憶媒体（図示略）に各種プログラムやデータ等を記憶する。なお、この記憶媒体（図示略）に記憶するプログラムやデータ等は、その一部若しくは全部を他の機器から通信回線を介して通信制御装置44から受信して記憶する構成にしてもよく、さらに、記憶媒体（図示略）はインターネット2等のネットワーク上に構築された他のサーバが有する記憶媒体であってもよい。

【0064】通信制御装置44は、モデム（MODEM: Modulator/DEModulator）、ADSL（Asymmetric Digital Subscriber Line）モデムやスプリッタ、ケーブルモデム、ターミナルアダプタ（TA: Terminal Adapter）やDSU（Digital Service Unit）等によって構成され、電話回線、ISDN（Integrated Services Digital Network）回線、ADSL回線、ケーブルテレビ回線、或いは光ファイバ等によってなる専用線等の通信回線を介して、インターネット2に接続されたサーバ3やクライアント5、…等の外部機器との通信を行うための制御を行う。

【0065】入力装置45は、図1に示すマウス45a等のポインティングデバイスや、数字キー、文字キー、各種機能キー等を備えるキーボード45b等を備えてなり、マウス45aにおける操作の有無と相対位置座標データとを含む操作信号を生成してCPU41へ出力し、

また、キーボード45bにおいて操作されたキーに対応する操作信号をCPU41へ出力する。

【0066】表示装置46は、CRTやLCD等の表示画面を有しており、CPU41から入力される表示情報に基づいて、CPU41により実行中のアプリケーションプログラムに関するデータや、インターネット2を経由して通信制御装置44により受信したウェブページ等を上記表示画面に表示する。

【0067】次に、本実施の形態におけるウェブサイト自動作成システム1の動作について説明する。図5は、ウェブサイト自動作成システム1におけるウェブサイト作成処理を示すフローチャートであり、(a)はクライアント4の動作を示し、(b)はサーバ3の動作を示す。なお、以下の説明において、ステップS11～S18の各処理は図5(a)に示すクライアント4の動作に含まれる処理であり、ステップS21～S33の各処理は、図5(b)に示すサーバ3の動作に含まれる処理である。

【0068】図5に示すウェブサイト作成処理は、インターネット2を介してクライアント4からサーバ3へのアクセスが行われ、該アクセス時に、ウェブサイト作成処理が要求されることにより開始される。

【0069】サーバ3が有するCPU31は、通信制御装置34を制御して、まず、IDとパスワードを入力するためのウェブページである認証画面をサーバ3へ送信する(ステップS21)。

【0070】クライアント4が有するCPU41は、サーバ3から送信された認証画面を通信制御装置44によって受信すると、受信した認証画面を表示装置46に表示させ、入力装置45が有するマウス45a、キーボード45bによる操作入力を受け付ける。そして、入力装置45における操作により入力されたユーザIDとパスワードとをサーバ3へ送信する(以上、ステップS11)。

【0071】CPU31は、クライアント4から送信されたユーザIDとパスワードとを通信制御装置34によって受信すると、受信したユーザIDとパスワードを、記憶装置33内のユーザ情報格納部33aに格納された情報と照合し(ステップS22)、受信したユーザIDとパスワードとがユーザ情報格納部33aに格納された情報に一致しなかった場合には(ステップS23; No)、認証に失敗した旨を示すウェブページである認証失敗エラー画面をサーバ3へ送信し(ステップS24)、本処理を終了する。

【0072】この場合、CPU41は、サーバ3から送信された認証失敗エラー画面を通信制御装置44によって受信すると(ステップS12; Yes)、ステップS18に移行して、受信した認証失敗エラー画面を表示装置46により表示させ、本処理を終了する。

【0073】また、サーバ3のCPU31は、ステップ

S23において、クライアント4から送信されたユーザIDとパスワードとがユーザ情報格納部33aに格納された情報に一致した場合には(ステップS23; Yes)、続いて、ウェブサイト格納部300に設けられたウェブスペースに付与されたユーザIDとパスワードに対する照合を行う(ステップS25)。

【0074】ここで、受信したユーザIDとパスワードとが一致するウェブスペースが、ウェブサイト格納部300に無い場合には(ステップS26; No)、ステップS24へ移行する。また、クライアント4から送信されたユーザIDとパスワードとが一致するウェブスペースが、ウェブサイト格納部300内に存在する場合は(ステップS26; Yes)、ウェブサイト格納部300内のウェブスペースの中から、クライアント4から送信されたユーザIDに対応するウェブスペースを探索する(ステップS27)。そして、CPU31は、ユーザIDに対応するウェブスペースにおいてウェブページを作成するための作成画面をクライアント4へ送信する(ステップS28)。

【0075】クライアント4のCPU41は、サーバ3から送信された作成画面を通信制御装置44により受信すると、受信した作成画面を表示装置46により表示させる(ステップS13)。ここで、入力装置45におけるマウス45aやキーボード45bの操作により、テキストの入力や画像指定等の入力操作が行われると(ステップS14)、CPU31は、入力の完了を示す指示に対して待機し(ステップS15)、入力が完了した場合には(ステップS15; Yes)、ステップS14における入力内容をサーバ3へ送信する(ステップS16)。なお、ステップS14で画像を指定する入力がなされた場合、CPU41は、該当する画像のデータを記憶装置43から読み出して、入力内容とともにサーバ3へ送信する。

【0076】サーバ3のCPU31は、クライアント4から送信された入力内容を受信すると(ステップS29)、受信した入力内容が再送信であるか否かを判別する(ステップS30)。ここで、再送信とは、同一のユーザIDを有するユーザにより、同一のウェブページについて、複数回にわたって入力内容が送信されることを示す。詳細は後述するが、例えば、クライアント4を利用するユーザが入力操作を行うことにより作成されたウェブページについて、ユーザが修正を希望し、該ウェブページの更新を行う場合が挙げられる。この場合、ユーザは、同一の作成画面で再度入力操作を行い、入力内容を再びサーバ3へ送信させればよい。

【0077】サーバ3のCPU31は、クライアント4から送信された入力内容が再送信である場合には(ステップS30; Yes)、既に作成されてウェブスペースに格納されたウェブページのデータを、ステップS29で受信した入力内容に基づいて上書き更新し(ステップ

S31)、ステップS33へ移行する。また、クライアント4から送信された入力内容が再送信でない場合は(ステップS30:No)、CPU31は、クライアント4から送信された入力内容に基づいてウェブページを作成し、ステップS33に移行する。

【0078】ステップS33において、CPU31は、ステップS31若しくはステップS32で作成されたウェブページを、クライアント4を利用するユーザのユーザIDに対応づけて、ウェブサイト格納部300内に設けられたウェブスペース内に格納し、本処理を終了する。

【0079】なお、クライアント4において、CPU41は、ステップS16で入力内容を送信した後に、ウェブページの作成処理が完了したか否かを判別し(ステップS17)、処理が完了したのであれば本処理を終了し、処理が完了していない場合は、ステップS13に戻る。なお、ここでステップS13に戻って行われる入力の内容は、図5(b)のステップS30において、CPU31によって再送信であると判別される。

【0080】なお、上記の図5(a)及び図5(b)に示すウェブページ作成処理において、サーバ3とクライアント4との間で送受信されるデータの一部若しくは全部について、SSL(Secure Sockets Layer)等のセキュリティ保護技術を利用することも勿論可能である。

【0081】次いで、図5に示すウェブページ作成処理において処理されるデータの態様について、詳細に説明する。

【0082】図6は、図5(b)のステップS21でCPU31によりクライアント4へ送信され、クライアント4の表示装置46に表示される認証画面400の例を示す図である。図6に示す認証画面400においては、中央に入力ボックス401が配置されており、その下方に送信ボタン402及びリセットボタン403が配置されている。

【0083】認証画面400中の入力ボックス401には、図5(a)のステップS11において、キーボード45bにおける操作によりユーザIDとパスワードとが入力される。図6に示す例では、入力されたユーザID「12345678」が入力ボックス401に表示されている。なお、セキュリティを考慮して、パスワードは伏せ字「*」により表示される。入力ボックス401における入力の後、マウス45a、若しくはキーボード45bの操作によって送信ボタン402が選択指定されると、入力ボックス401に入力された内容がサーバ3へ送信される。また、マウス45a、若しくはキーボード45bの操作によってリセットボタン403が選択指定されると、入力ボックス401における入力内容がクリアされる。

【0084】図7は、図5(b)のステップS28でCPU31によりクライアント4へ送信され、図5(a)

のステップS13でクライアント4の表示装置46に表示される作成画面の一例としてのトップページ編集画面410を示す図である。また、図8は、図7に示すトップページ編集画面410における入力操作の様子を示す図であり、(a)は背景入力部412における入力操作の様子を示し、(b)はタイトルロゴ入力部413における入力操作の様子を示し、(c)は画像ファイルを指定する際の入力操作の様子を示す。

【0085】図7に示すトップページ編集画面410は、作成中のウェブサイトにおいて最初に表示されるトップページを作成するための画面である。同図に示すように、トップページ編集画面410は、縦方向に伸びる二つのフレームに分割されており、画面左側において入力操作が可能となっている。詳細には、トップページ編集画面410には、画面左側において、上部に企業名入力部411が配置され、その下方には背景入力部412が配置されている。さらに、その下方には、タイトルロゴ入力部413、画像指定部414、コメント入力部415及び基本情報入力部416が順に配置されている。

【0086】企業名入力部411には、企業名を入力するためのテキスト入力ボックスが配置されており、入力装置45の操作によって企業名が入力される。この企業名入力部411に入力された企業名は、例えば、図5(b)のステップS31又はステップS32で作成されるウェブページのメタタグとして設定される。

【0087】背景入力部412は、ウェブページの背景について入力を行うための入力エリアであって、ウェブページの背景となる画像の使用/不使用を選択するための通称ラジオボタンが配置されている。ここで、背景として画像を使用しない場合は、背景の色のみを選択することができる。また、背景として画像を使用する場合は、予め用意された壁紙見本の中から所望の画像を選択することができる。この背景入力部412における入力操作の内容を、図8(a)に示す。

【0088】図8(a)に示すように、背景入力部412において背景として画像を使用する側のラジオボタンが選択され、「壁紙見本1」のリンクボタンが、例えばマウス45aのクリック操作によって選択指定されると、ポップアップボックス412aが表示される。ポップアップボックス412aの中には、選択可能な背景画像が一覧表示される。そして、ユーザにより、ポップアップボックス412a内の所望の画像が選択指定されると、該画像がウェブページの背景として指定される。なお、図8(a)に示す「壁紙見本2」のリンクボタンが選択指定されると、ポップアップボックス412aとは異なるポップアップボックスが表示され、該ポップアップボックス内には、ポップアップボックス412aとは異なる背景画像が一覧表示される。

【0089】図7に示すトップページ編集画面410において、タイトルロゴ入力部413は、ウェブページの

上部に表示されるタイトルロゴについて入力を行うための入力エリアであり、タイトルロゴ部分における画像の使用／不使用を選択するためのラジオボタンや、タイトルロゴの文字を入力するためのテキスト入力ボックス、文字のサイズや色、装飾を選択指定可能なプルダウンキーが配置されている。このタイトルロゴ入力部413における入力操作の内容を、図8(b)に示す。

【0090】図8(b)に示すように、タイトルロゴ入力部413には、参照ボタン413a、及びプルダウンキー413b、413c、413dが配置されている。参照ボタン413aは画像の選択を行うボタンであって、画像を選択する際には、参照ボタン413aの操作に続いて、後述する図8(c)に示す操作が行われる。

【0091】図8(b)に示すプルダウンキー413b、413c、413dは、それぞれ、タイトルロゴの文字の表示サイズ、文字の表示色、文字に対する装飾を指定するためのボタンである。そして、入力装置45の操作によってプルダウンキー413b、413c、413dが選択指定されると、プルダウンプラット421、422、423が表示され、プルダウンプラット421、422、423内に一覧表示された項目の中から所望の項目を選択できる。例えば、プルダウンキー413bが選択指定されるとプルダウンプラット421が表示される。プルダウンプラット421には、選択可能な文字サイズとして、「小」、「中」、「大」、「特大」の四通りのサイズが表示されており、ユーザはこの中から所望の文字サイズを指定できる。

【0092】図8(c)には、参照ボタン413aが操作された際に画像ファイルを指定するための選択ウィンドウ424を示す。参照ボタン413aが選択指定されると、トップページ編集画面410の画面上に選択ウィンドウ424が表示される。選択ウィンドウ424は、クライアント4が備える記憶装置43内に格納されたファイルを指定するためのウィンドウである。選択ウィンドウ424には、記憶装置43の記憶エリアやドライブ類を指定するためのプルダウンメニュー425、及び、指定された記憶エリアに含まれるファイルが一覧表示される一覧表示ボックス426、一覧表示ボックス426において指定されたファイルを確定するための指定ボタン427、画像の選択をキャンセルするためのキャンセルボタン428等が配置される。

【0093】このように、選択ウィンドウ424によれば、クライアント4が備える記憶装置43に記憶された画像ファイルを任意に指定することができる。なお、選択ウィンドウ424は、図8(b)に示す参照ボタン413aの操作に限らず、トップページ編集画面410に配置された他の「参照」ボタンが操作された場合など、画像の指定を指示する操作に応じてトップページ編集画面410上に重ねて表示される。

【0094】図7に戻り、画像指定部414は、トップ

ページ用画像として、作成中のトップページに表示される画像を選択するための入力エリアであり、画像の使用／不使用を指定するためのボタン等が配置されている。

【0095】また、コメント入力部415は、作成中のトップページに表示されるコメントを入力するための入力エリアであって、コメントが入力されるテキスト入力ボックスや背景色を指定するためのプルダウンキー等が配置されている。

【0096】さらに、基本情報入力部416は、当該ウェブサイトを閲覧するユーザに対して伝達すべき基本的な情報を入力するための入力エリアであり、例えば、店舗を紹介するウェブページであれば、該店舗の住所や電話番号、FAX番号、営業時間、休日、電子メールアドレス等を入力するためのテキストボックス等が配置される。なお、図7に示す例において、基本情報入力部416において入力される基本情報は店舗を紹介するウェブサイトに適したものであるが、このほか、ウェブサイトの目的に応じて異なる情報を入力できる形式とすることも勿論可能である。

【0097】そして、トップページ編集画面410の最下部には、送信ボタン417及びリセットボタン418が配置されている。送信ボタン417は、トップページ編集画面410において入力装置45により入力された内容を、インターネット2を介してサーバ3へ送信するボタンであり、送信ボタン417の操作により、図5(a)のステップS16に示す処理が実行される。なお、送信ボタン417の操作時には、入力装置45による入力内容の他、図8(c)に示す選択ウィンドウ424を用いて指定された画像のデータ等がサーバ3へ送信される。また、リセットボタン418は、トップページ編集画面410における入力内容を全てクリアするためのボタンである。

【0098】さらに、図7に示すトップページ編集画面410の右側には、パターン案内表示部419が配置されている。パターン案内表示部419は、トップページ編集画面410の各入力エリアに入力された内容の、トップページ内における表示位置を示すものである。例えば、パターン案内表示部419の上部においてタイトルロゴが表示される位置には、「3」と表示されている。これは、トップページ編集画面410において(3)の符号が付されたタイトルロゴ入力部413での入力内容が、トップページ上部に表示されることを示している。同様に、画像指定部414で指定された画像は、作成中のトップページにおいて、パターン案内表示部419中で「4」と表示された位置に表示され、コメント入力部415における入力内容は、パターン案内表示部419中で「5」と表示された位置に表示され、基本情報入力部416における入力内容は「6」と表示された位置に表示される。

【0099】即ち、トップページ編集画面410に配置

される企業名入力部411、背景入力部412、タイトルロゴ入力部413、画像指定部414、コメント入力部415、及び基本情報入力部416の各入力エリアは、予め、その入力内容がトップページ中で表示される位置が定められており、パターン案内表示部419は、各入力エリアが対応するトップページ中の位置を示すものである。

【0100】従って、クライアント4を操作するユーザは、トップページ編集画面410が表示された状態で、パターン案内表示部419を参考にしながら入力操作を行うことにより、作成されるページのイメージを確認しながらトップページの作成を行うことができる。

【0101】図9は、トップページ編集画面410における操作により作成されたウェブページが表示される画面の一例として、ウェブページ表示画面430を示す図である。このウェブページ表示画面430は、図7に示すトップページ編集画面410の送信ボタン417が操作された後、クライアント4の表示装置46に表示される。

【0102】図9に示すウェブページ表示画面430には、トップページ編集画面410（図7）のタイトルロゴ入力部413における入力内容に基づいて、タイトルロゴが表示されるタイトルロゴ表示部431や、画像指定部414において指定された画像が表示される画像表示部432、コメント入力部415における入力内容に基づいて、コメントが表示されるコメント表示部433、基本情報入力部416における入力内容に基づいて基本情報が表示される基本情報表示部434が配置されている。

【0103】即ち、図5（b）のステップS31若しくはステップS32における処理により、CPU31は、クライアント4から送信された入力内容に基づいて、予め定められた位置に文字や画像を配置することにより、図9に示すようなウェブページを作成する。そして、作成されたウェブページは、クライアント4を操作するユーザに対応づけられたウェブサイト格納部300内のウェブスペースに格納されて閲覧可能となり、クライアント4の表示装置46に表示される。

【0104】ここで、クライアント4を操作するユーザは、ウェブページ表示画面430に表示されたウェブページの更新を希望する場合は、ウェブページ表示画面430を表示するウェブブラウザの「戻る」操作等により、再度、トップページ編集画面410（図7）を表示させて、入力操作を行えばよい。そして、この入力操作により入力された内容は、図5（b）のステップS30に示す処理により「再送信」として処理され、該当するウェブページが更新される。

【0105】以上のように、本発明の実施の形態におけるウェブサイト自動作成システム1によれば、ユーザが操作するクライアント4とサーバ3とがインターネット

2を介して接続されており、クライアント4からサーバ3へアクセスし、ウェブページの作成を要求すると、サーバ3により、認証画面400がクライアント4へ送信される。ここで、クライアント4により、認証画面400における入力操作が行われ、入力されたユーザIDとパスワードがサーバ3へ送信されると、サーバ3は、ユーザIDとパスワードとを受信してユーザ情報格納部33aに格納された情報と照合する。そして、受信したユーザIDとパスワードがユーザ情報格納部33a内の情報と一致した場合には、CPU31は、ウェブサイト格納部300において、受信したユーザID及びパスワードと一致する情報を有するウェブスペースを探索する。そして、一致するウェブスペースが有った場合、CPU31は、該ウェブスペースをユーザIDに対応するウェブスペースとして、該ウェブスペース内に格納するウェブページの作成処理を実行する。また、ウェブサイト格納部300内に設けられたウェブスペースには、固有のインターネットアドレスが割り当てられているので、作成されたウェブページは、すぐにインターネット2を介してクライアント4やクライアント5、…により閲覧可能となる。

【0106】従って、ユーザは、クライアント4を操作してユーザIDとパスワードとを入力することにより、自分に割り当てられたウェブスペース内にウェブページを作成させ、ウェブサイト容易に作成できる。特に、ウェブサイト格納部300内のウェブスペースには固有のインターネットアドレスが割り当てられるため、ユーザが自分でドメインを取得しなくても良いので、ネットワークやコンピュータの知識に乏しいユーザであっても手軽に利用できる。

【0107】そして、サーバ3は、クライアント4に対してウェブページを作成するための作成画面を送信し、クライアント4においては、サーバ3から送信された作成画面を表示装置46に表示させ、入力装置45による入力操作を受け付ける。その後、クライアント4により、作成画面上において行われた入力操作の内容がサーバ3へ送信されると、サーバ3は、入力内容に基づいてウェブページを作成し、ウェブサイト格納部300内のウェブスペースに格納する。例えば、サーバ3は、作成画面としてトップページ編集画面410を送信する。トップページ編集画面410には、企業名入力部411、背景入力部412、タイトルロゴ入力部413、画像指定部414、コメント入力部415、及び基本情報入力部416等、トップページに表示される情報の種類に応じた複数の入力エリアが配置されている。このため、ユーザは、トップページ編集画面410の各入力エリアに、対応する情報を入力すればよい。そして、サーバ3により、トップページ編集画面410の各入力エリアに入力された情報が、入力内容に基づいて予め定められた位置に配置されることで、例えばウェブページ表示画面

430に示すようなトップページが作成される。

【0108】従って、ユーザがウェブページ中の文字や画像のレイアウトや画像の数等を全て自分で決める必要がないので、ウェブページにおける全ての要素を検討して決定するだけの知識や経験の無いユーザであっても、各入力エリアに対応する情報を入力し、一定程度以上の出来映えのウェブページを容易に作成できる。このため、従来のウェブページ作成ソフトウェアのように多くの工程に係る煩雑な作業を敬遠するユーザに対しても、ウェブページを作成する環境を提供することができ、ウェブページの作成を多額の報酬を支払ってウェブページ作成業者に依頼する必要がない。

【0109】さらに、サーバ3により作成されたウェブページについて、その内容の更新を望む場合、ユーザは、再度サーバ3にアクセスし、或いはウェブブラウザソフトウェアを操作することでトップページ編集画面410を再び表示させ、入力操作を行えばよい。このため、非常に簡単な操作により、容易にウェブページの更新をも自分で行うことができるので、ウェブページの運用についても低コストで行うことができる。また、サーバ3によるウェブページ作成処理は、クライアント4を操作するユーザ以外の人の手を経ないので、ユーザは自分の都合が良い時間を使って、ウェブページの作成・更新を行える。このため、非常に利便性の高いウェブサイト自動作成システム1を提供できる。

【0110】また、例えば、ポップアップボックス412a(図8(a))やプルダウンタブ421、422、423(図8(b))に表示される選択肢の数を多くすれば、トップページ編集画面410を使用したとしても、多様なウェブページを作成することができる。さらに、例えば選択ウィンドウ424(図8(c))を用いて、クライアント4の記憶装置43に格納された画像を、ウェブページ中に配置する画像として指定することができる。このため、簡単な操作により、かつ、個性的なウェブページを作成することも可能である。

【0111】そして、クライアント4は、一般的な入力装置であるマウス45aやキーボード45b等を備え、また、広く一般に普及しているウェブブラウザソフトウェアを利用可能であれば良い。即ち、文字入力と、インターネット2上のウェブサイトの閲覧が可能な、ごく普通の装置であれば良い。このため、ウェブサイト自動作成システム1においては、サーバ3を用いることで、ウェブページを作成するための特別なソフトウェアやハードウェアを必要としないので、非常に安価に、かつ手軽にウェブページを作成することができる。

【0112】さらに、サーバ3において、SSL等のセキュリティ対策を施すことにより、クライアント4において入力される内容の漏洩を防止し、セキュリティ面での信頼性を高めることができる。

【0113】なお、上記実施の形態において、クライア

ント4は、表示装置46とマウス45aやキーボード45bを備える構成としたが、本発明はこれに限定されるものではなく、例えば、画面と一体となったペンタブレットや、複数のキー等による文字入力や指示入力が可能で、ウェブブラウザを搭載しているものであれば、PDAや携帯型電話機であっても良い。さらに、サーバ3により作成されるウェブページは、通常のコンピュータにより作成されるウェブページに限られず、例えば、トップページ編集画面410の構成等を変更することにより、ウェブブラウザを搭載した携帯型電話機向けに特化したウェブページを作成することも可能である。また、その他の細部構成についても、本発明は上記した実施の形態に限定されるものではなく、特許請求の範囲に記載した技術思想の範囲内において種々の変更が可能なのはいうまでもない。

【0114】例えば、ウェブサイト自動作成システム1により作成されるウェブページは、図7のトップページ編集画面410に示すトップページに限られず、外観の異なる複数のウェブページを作成することも可能である。以下、この例について、図10～図13の各図を参照して説明する。

【0115】図10～図13は、本発明の他の実施の形態として、ウェブサイト自動作成システム1により複数のウェブページを作成する場合を示す図である。詳細には、図10は、複数のウェブページからなるウェブサイトを作成する際に、クライアント4の表示装置46に表示される編集画面440を示す図であり、図11は、作成するウェブページの構成を変更するためのフレームデザイン選択画面450を示す図である。また、図12は、選択可能なウェブページのページパターンの例を示す図であり、図13は、複数のウェブページを含むウェブサイトの構成を設定するためのサイト設定画面470を示す図である。

【0116】編集画面440は、複数のウェブページからなるウェブサイトを作成する際に、サーバ3からクライアント4へ送信される作成画面である。なお、ここで作成されるウェブサイトを構成する複数のウェブページは、ウェブサイト格納部300内に設けられたウェブスペースのうち、同一のウェブスペースに格納されるものとする。編集画面440には、ページリンク441と、フレームデザイン変更ボタン442と、プレビューボタン443とが配置されている。

【0117】ページリンク441は、作成するウェブサイトに含まれる複数のウェブページへのリンクボタンが配列されて構成され、各ウェブページのメニュー表示ともなっている。クライアント4を操作するユーザにより、ページリンク441の各リンクボタンが選択指定されると、サーバ3は、対応するウェブページの作成に移行する。

【0118】プレビューボタン443は、編集画面44

0が表示された状態で行われる各種操作によって作成されたウェブページについて、プレビューの表示を指示するためのリンクボタンである。即ち、クライアント4における入力内容に基づいて、サーバ3によって複数のウェブページが作成された場合に、プレビューボタン443が選択操作されると、各ウェブページのプレビューが画面上に表示される。これにより、クライアント4を操作するユーザは、プレビューでウェブページの出来具合を確認しながらウェブページの作成を行うことができる。

【0119】そして、編集画面440における入力操作が完了すると、クライアント4における入力内容がサーバ3へ全て送信され、サーバ3においてウェブページが作成され、ウェブサイト格納部300内のウェブスペースに格納される。そして、作成されたウェブページは、インターネット2を介して、クライアント5、…やクライアント4により閲覧可能となる。

【0120】フレームデザイン変更ボタン442は、ページリンク441の各リンクボタンに対応するウェブページについて、フレームのデザインの変更を指示するリンクボタンである。クライアント4を操作するユーザにより、フレームデザイン変更ボタン442が選択指定されると、サーバ3は、フレームデザインの変更を行うためのフレームデザイン選択画面450をサーバ3へ送信する。

【0121】ここで、フレームデザイン選択画面450の構成について説明する。図11に示すフレームデザイン選択画面450には、複数のフレームデザインが表示され、各フレームデザインを選択するための複数のラジオボタン451、…が配置されている。

【0122】複数のウェブページを含んで構成されるウェブサイトにおいては、ウェブブラウザにより各ウェブページを表示する際に、ウェブページとともに、該ウェブページを含むウェブサイト中の他のウェブページを示すメニューが表示される場合がある。この場合、画面上には、メニューとウェブページとが枠で仕切られて表示され、このような画面はフレーム画面と通称されている。図11に示すフレームデザイン選択画面450は、ウェブブラウザにより表示される際のメニューとウェブページとの配置状態を示すフレームデザインを選択するためのものである。

【0123】フレームデザイン選択画面450が画面上に表示された状態で、クライアント4においては、ユーザによる選択操作が行われる。そして、ユーザが希望するフレームデザインが選択されると、選択されたフレームデザインの横に配置されたラジオボタン451にチェックマークが表示される。

【0124】ここで、送信ボタン452が選択指定されると、選択されたフレームデザインに係る情報がクライアント4からサーバ3へ送信される。また、リセットボ

タン453が選択指定されると、フレームデザインの選択状態がクリアされる。

【0125】このように、フレームデザイン選択画面450を用いることにより、メニューとウェブページとの配置状態を、任意のデザインにすることができる。

【0126】また、図12には、サーバ3により作成されるウェブページのページパターンの例を示す。ページパターン461は、最上部のタイトルロゴの下方に、画像、コメント、基本情報が順に配置されたレイアウトとなっており、ページパターン462は、タイトルロゴの下方に、複数の項目が並列に配置されたレイアウトとなっている。また、ページパターン463、ページパターン464、ページパターン465は、それぞれ異なるレイアウトとなっている。

【0127】複数のウェブページを作成する場合、全てのページが同一のレイアウトで構成されると興趣性に欠けることがある。しかし、図12に示すページパターン461、462、…から、所望のレイアウトを選択することにより、ユーザは、各ウェブページの目的に応じたレイアウトを選択することができる。そして、ここで選択されたページパターンに対応する作成画面をサーバ3からクライアント4へ送信することにより、選択されたページパターンに準じたウェブページが作成される。

【0128】従って、ユーザは、複数のウェブページにより構成されるウェブサイトを作成する際に、各ウェブページのレイアウトを、各ウェブページの目的に応じたバリエーションに富む構成とすることができる。この場合、ユーザは、各ページのレイアウトを自分で創案する必要がないので、知識と経験に乏しいユーザであっても、簡単な操作により、バリエーションに富むウェブサイトを作成できる。

【0129】なお、図12に示すページパターン461、462、…は、あくまで、ウェブサイト自動作成システム1において作成可能なウェブページのレイアウトを例示するものであり、表示領域の形状やサイズ、文字や画像等の各オブジェクトの配置状態について、より多くのレイアウトを使用可能なことは勿論である。

【0130】そして、以上の各画面における操作により作成された複数のウェブページについては、図13に示すサイト設定画面470により、表示順序を変更することができる。

【0131】サイト設定画面470には、各ウェブページのページパターンを示すページパターン表示部471、各ウェブページの名称を示すページ名表示部472、及び、各ウェブページの表示順序を示す表示順序表示部473が配置され、各表示部には、各ウェブページの情報が上から順に表示されている。例えば、サイト設定画面470の最上部にはトップページに関する情報が表示されている。従って、ページパターン表示部471の最上部に表示されたページパターンは、トップページ

用に設定されたページパターンを示す「トップページ」となっている。

【0132】また、ページ名表示部472においては、各ウェブページの名称を入力できるテキスト入力ボックスが配置されており、各テキストボックスの左横には各ウェブページの表示／非表示を設定するためのチェックボックスが配置されている。このチェックボックスは、入力装置45の操作により選択指定される毎にチェックの有無が切り替わり、チェックが無いウェブページについては、インターネット2を介した閲覧が禁止されるようになっている。このため、ページ名表示部472における入力操作により、各ウェブページの名称の設定と、各ウェブページの表示／非表示の切り替えを行うことができる。なお、ページ名表示部472に設定される各ウェブページの名称は、図10の編集画面440におけるページリンク441や、フレーム表示されるメニューに自動的に反映される。

【0133】そして、表示順序表示部473には、表示順序の表示枠と、表示順序を変更するためのUP/DOWNキー474が配置されている。UP/DOWNキー474の操作により、各ウェブページの表示順序を任意に設定できる。なお、サイト設定画面470中、最下段に示すウェブページについては、ページ名表示部472のチェックボックスのチェックが外れているため、このウェブページは表示されないことになっているが、表示順序は「7」に設定されている。これは、各ウェブページの表示順序の重複等を防止し、ページ名表示部472のチェックボックスの操作により速やかに表示／非表示の切替を行うためである。

【0134】以上のように、ウェブサイト自動作成システム1においては、サーバ3からクライアント4へ、編集画面440、フレームデザイン選択画面450、サイト設定画面470等の各種の作成画面を送信し、クライアント4において、上記作成画面の表示時に入力された入力内容をサーバ3へ送信することにより、複数のウェブページを含むウェブサイトを作成することも可能である。また、サーバ3からより多数の作成画面を送信し、これら作成画面の表示時における入力内容をクライアント4からサーバ3へ送信し、即ち、サーバ3とクライアント4との間におけるデータ通信の頻度を変更すれば、より多彩なウェブサイトを作成することができる。

【0135】

【発明の効果】以上説明したように、請求項1記載の発明のウェブサイト作成装置、及び、請求項7記載の発明の記録媒体によれば、ユーザがオブジェクトを指定する簡単な操作を行うだけでウェブページを作成して公開することができるので、ネットワークやコンピュータの知識や利用経験に乏しいユーザであっても、容易に、自分の好みのウェブページを作成して公開することができる。特に、ウェブサイト作成装置から端末装置に対し

て、ウェブページにおけるオブジェクトの配置状態を示す配置情報が送信されるため、ウェブページ中のオブジェクトの配置はユーザが指定しなくても予め定められている。従って、ユーザがウェブページの全ての構成を創案しなくても良いので、不慣れなユーザであっても手軽にウェブページを作成できる。

【0136】請求項2記載の発明のウェブサイト作成装置によれば、端末装置を利用するユーザは、ウェブページにおいてオブジェクトが配置される位置を示す情報と、オブジェクトを指定する情報を入力するための入力エリアとが表示された画面を見ながら、入力エリアにオブジェクトを指定する情報を入力すれば良いので、より簡単な作業によって容易にウェブページを作成でき、経験の浅い不慣れなユーザであっても手軽にウェブページを作成することができる。

【0137】請求項3記載の発明のウェブサイト作成装置によれば、端末装置から識別情報を送信することによって、ウェブサイト自動作成装置においては、作成されたウェブページが送信された識別情報に対応する格納領域に格納される。これにより、ウェブサイト自動作成装置において、複数のユーザに対して効率よくウェブサイト自動作成のサービスを提供することができる。

【0138】請求項4記載の発明のウェブサイト作成装置によれば、端末装置を利用するユーザは、異なる配置情報の中から所望の配置情報を用いてウェブページを作成することができる。例えば、オブジェクトのレイアウトが異なる複数の配置情報の中から所望の配置情報を選択すれば、より高い自由度で、自分の好みに合ったウェブページを作成することができる。

【0139】請求項5記載の発明のウェブサイト自動作成システム、及び、請求項6記載の発明のウェブサイト自動作成方法によれば、端末装置を利用するユーザは、ウェブページにおいてオブジェクトが配置される位置を示す情報と、オブジェクトを指定する情報を入力するための入力エリアとが表示された画面を見ながら、入力エリアにオブジェクトを指定する情報を入力すれば良い。また、格納領域には固有のインターネットアドレスが付与されているので、ユーザが独自のドメイン名を取得する等の作業を行わなくても、作成されたウェブページがインターネット上で公開される。これにより、ユーザが簡単な操作を行うだけでウェブページを作成して公開することができるので、ネットワークやコンピュータの知識や利用経験に乏しいユーザであっても、容易に、自分の好みのウェブページを作成して公開することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施の形態におけるウェブサイト自動作成システム1の構成を示す図である。

【図2】図1に示すサーバ3の構成を示すブロック図である。

【図3】図2に示す記憶装置33内のユーザ情報格納部33a及びウェブサイト格納部300の構成を模式的に示す図であり、(a)はユーザ情報格納部33aの構成を示し、(b)はウェブサイト格納部300の構成を示す。

【図4】図1に示すクライアント4の構成を示すブロック図である。

【図5】図1に示すウェブサイト自動作成システム1におけるウェブサイト作成処理を示すフローチャートであり、(a)はクライアント4の動作を示し、(b)はサーバ3の動作を示す。

【図6】図5に示すウェブサイト作成処理において、CPU31によりクライアント4へ送信され、クライアント4の表示装置46に表示される認証画面400の例を示す図である。

【図7】図5に示すウェブサイト作成処理において、CPU31によりクライアント4へ送信され、クライアント4の表示装置46に表示される作成画面の一例としてのトップページ編集画面410を示す図である。

【図8】図7に示すトップページ編集画面410における入力操作の様子を示す図であり、(a)は背景入力部412における入力操作の様子を示し、(b)はタイトルロゴ入力部413における入力操作の様子を示し、(c)は画像ファイルを指定する際の入力操作の様子を示す。

【図9】図7に示すトップページ編集画面410における操作により作成されたウェブページが表示される画面の一例として、ウェブページ表示画面430を示す図で

ある。

【図10】本発明の他の実施の形態において、図1に示すクライアント4の表示装置46に表示される編集画面440を示す図である。

【図11】本発明の他の実施の形態において、図1に示すクライアント4の表示装置46に表示されるフレームデザイン選択画面450を示す図である。

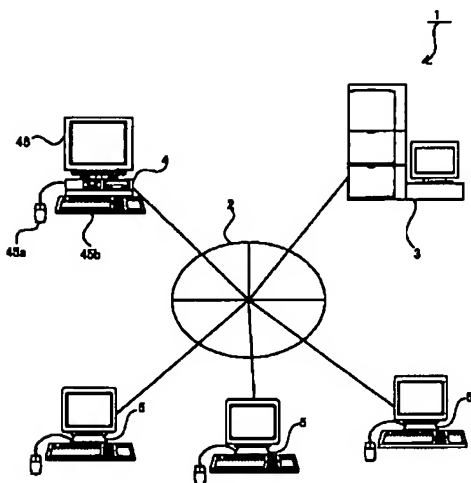
【図12】本発明の他の実施の形態において作成されるウェブページについて、ページパターンの例を示す図である。

【図13】本発明の他の実施の形態において、図1に示すクライアント4の表示装置46に表示されるサイト設定画面470を示す図である。

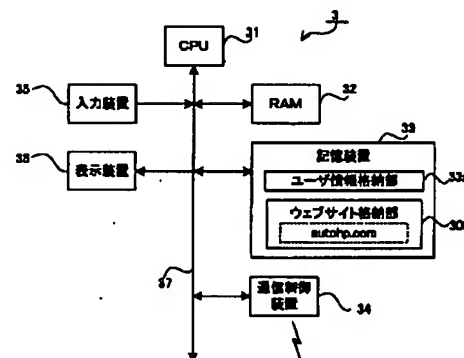
【符号の説明】

- 1 ウェブサイト自動作成システム
- 2 インターネット
- 3 サーバ
- 31 CPU
- 32 RAM
- 33 記憶装置
- 33a ユーザ情報格納部
- 300 ウェブサイト格納部
- 301, 302 ウェブスペース
- 34 通信制御装置
- 35 入力装置
- 36 表示装置
- 4 クライアント
- 5, … クライアント

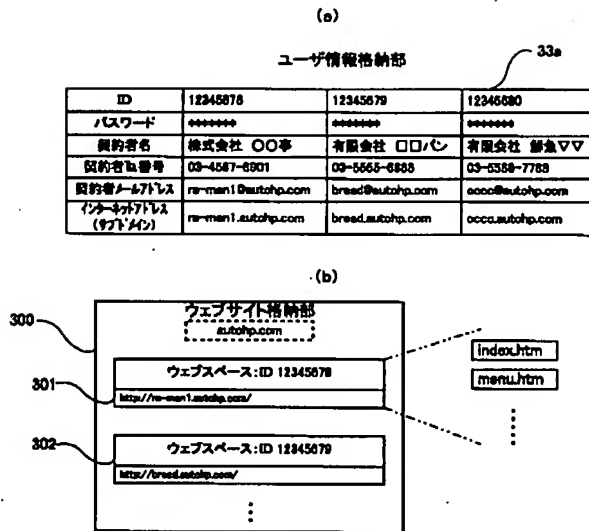
【図1】



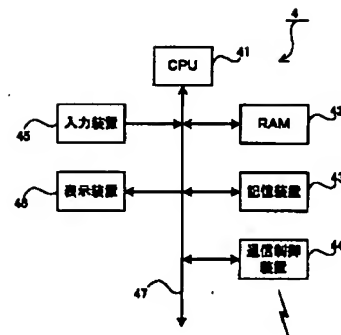
【図2】



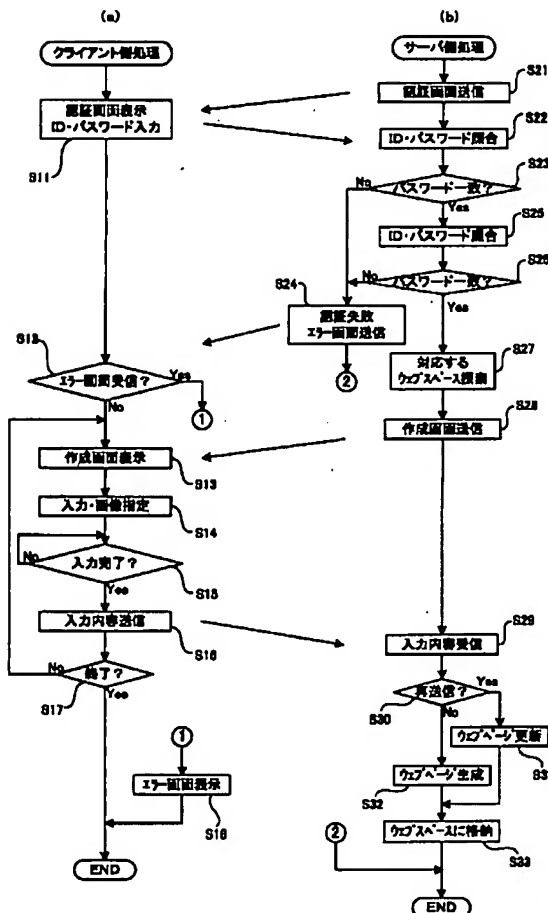
【図3】



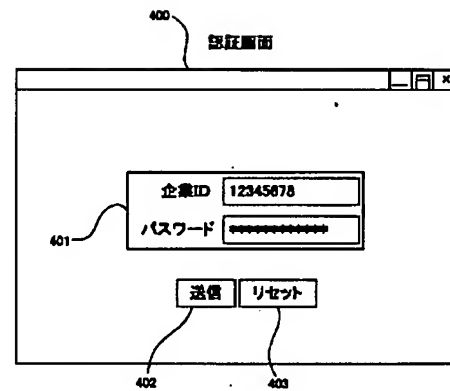
【図4】



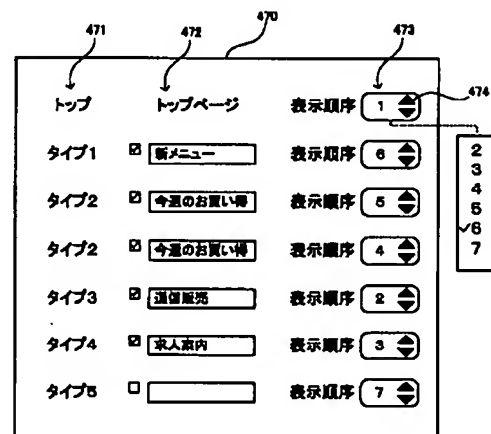
【図5】



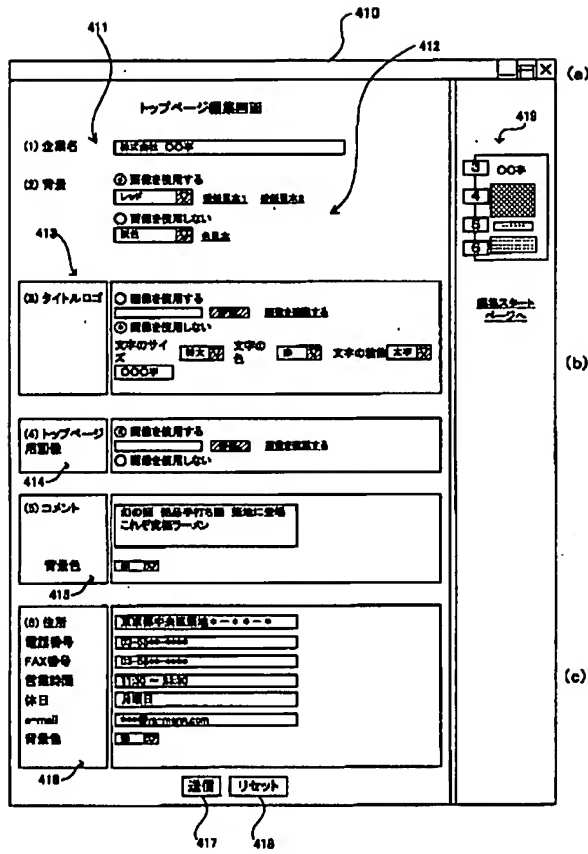
【図6】



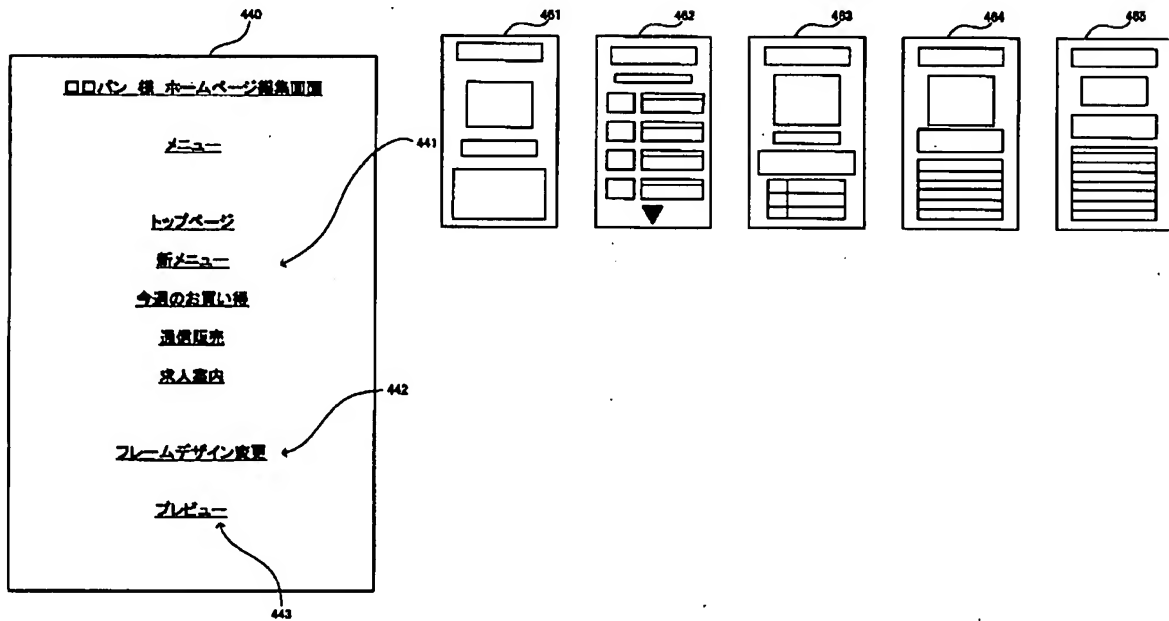
【図13】



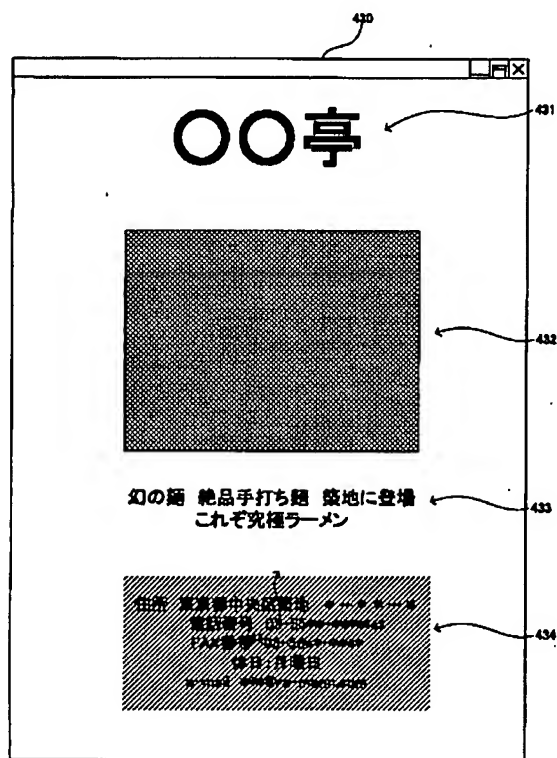
【图7】



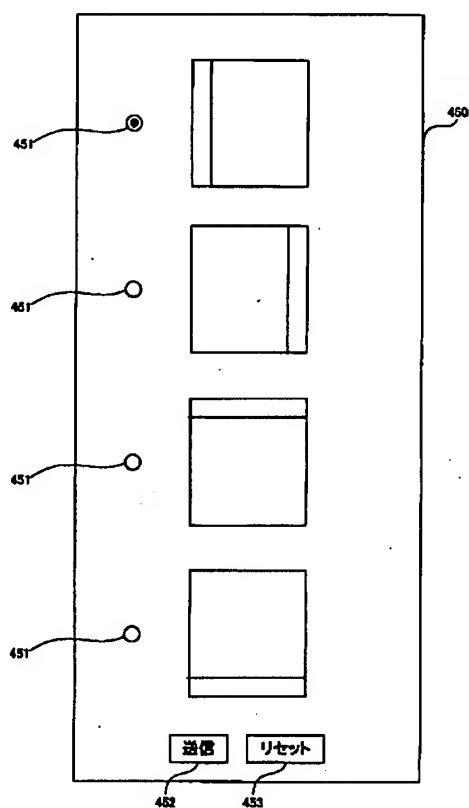
【図10】



【図9】



【図11】



フロントページの続き

(72)発明者 池田 秀司
東京都文京区音羽2丁目2番2号 アイ・ビー・アイ株式会社内